

平成 30 年ヒラメ稚魚分布密度調査結果 (日本海) について

当研究所では日本海における天然ヒラメの稚魚分布密度調査を昭和55年から行っており、平成30年は7月3日、7月24日、8月7日、9月4日に桁網(水工研Ⅱ型)を用いてつがる市沖8点で調査を行いました(図1)。ヒラメの分布密度は桁網の漁獲効率を0.28とすると0~151尾/1,000m<sup>2</sup>の範囲にありました(表1)。採捕したヒラメの全長組成は7月3日に水深5mで30~39mm、10mで20~59mm、7月24日に水深5mで30~39、10mで30~59mm、8月7日に水深5mで40~59mm、10mで40~49mm、9月4日に水深5mで60~79mm、10mで70~79mmと100~109mmが主体となっていました(図2)。水深別平均分布密度の最高値を着底指数とすると、平成30年は112で、昭和55年以降の平均値149を下回る水準でした(図3)。

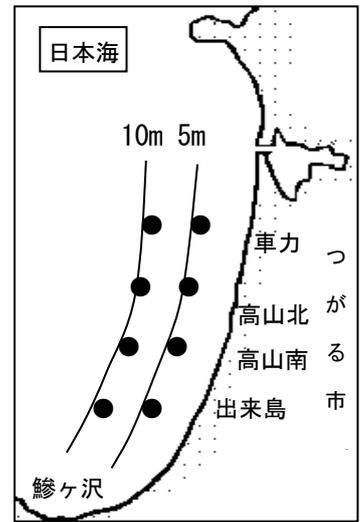


図 1 調査地点

表 1 ヒラメ稚魚分布密度

日本海	水深				水深				(個体/1,000m <sup>2</sup> )		
	調査月日/調査点	出来島	高山南	高山北	車力	出来島	高山南	高山北	車力	5m 平均	10m 平均
2018. 7. 3	18	45	52	23	3	9	0	0		36	3
2018. 7. 24	145	96	131	21	15	21	31	39		112	26
2018. 8. 7	36	151	50	142	0	13	6	17		96	9
2018. 9. 4	15	17	14	13	3	0	0	3		15	2

\* 桁網の漁獲効率を0.28として算出した。

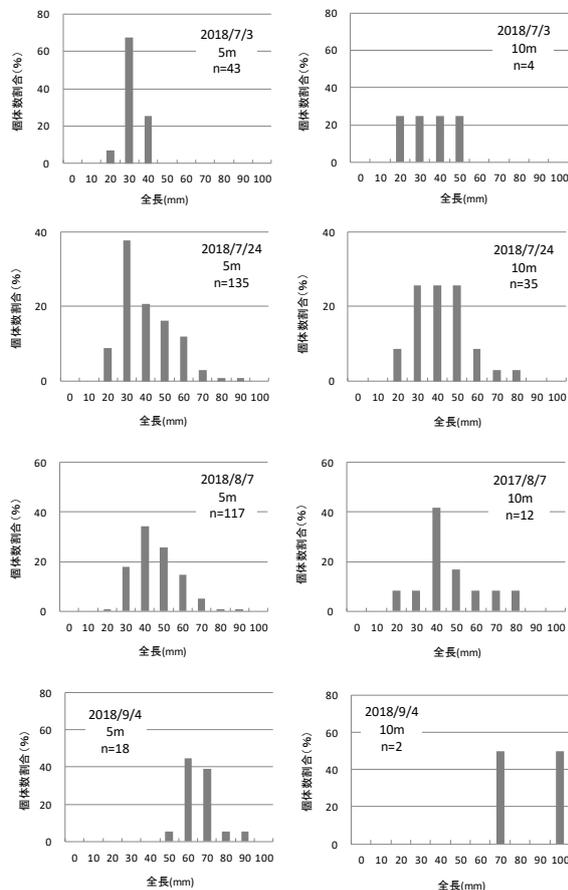


図 2 採集したヒラメ稚魚の全長組成

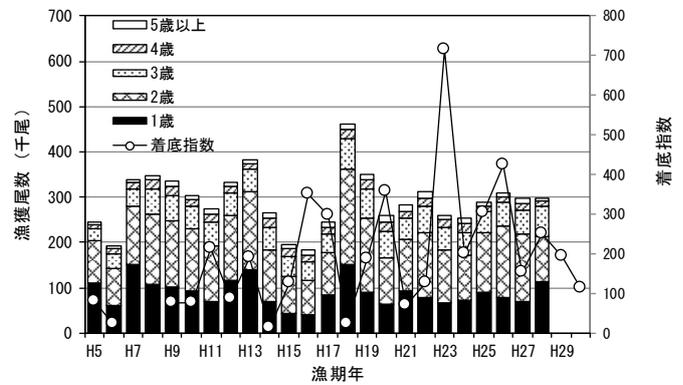


図 3 日本海のヒラメ着底指数と年齢別漁獲尾数の推移